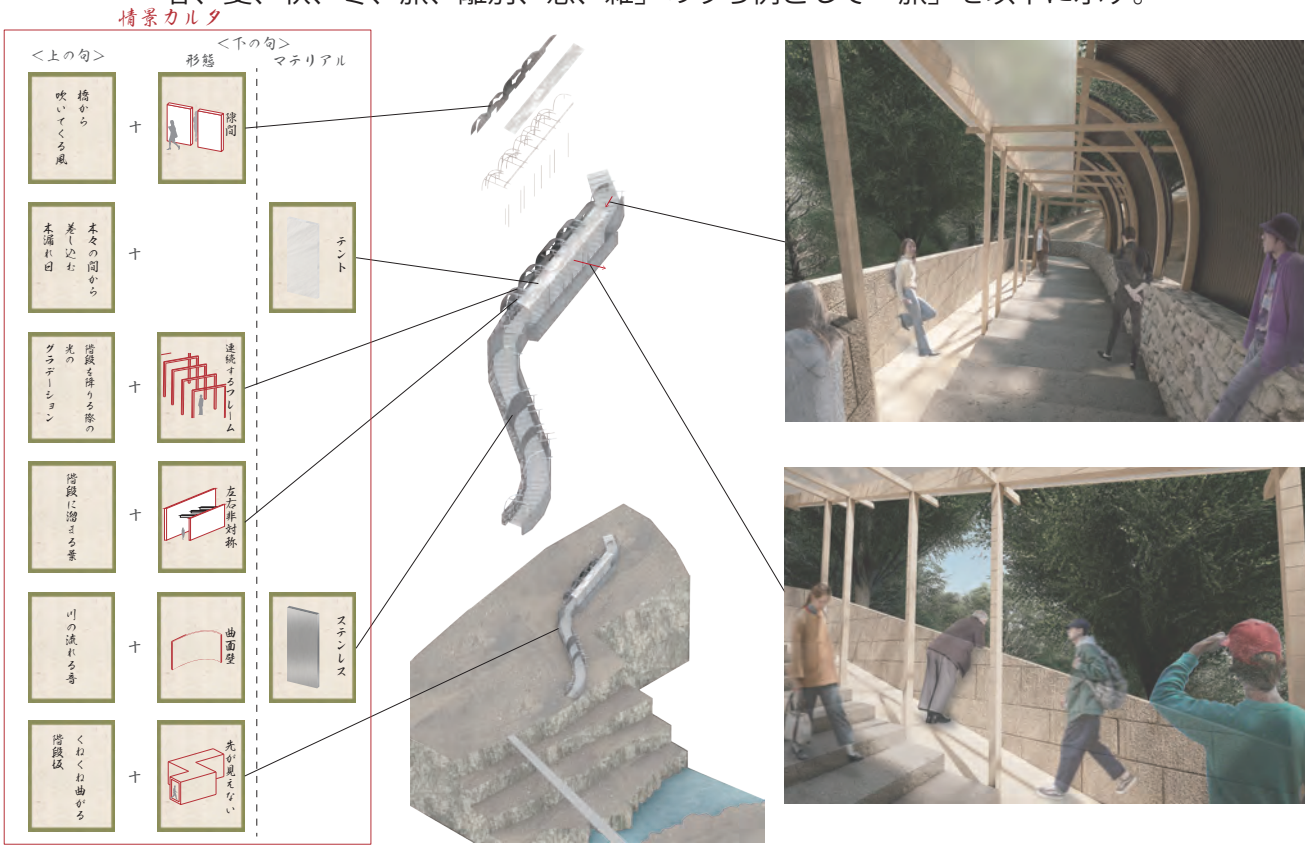
情景を詠む
-和歌の作家たちの心情に基づいた建築の提案-

六角研究室　鈴木 碧衣

研究概要：現在、急速な技術発展により、私たちは容易に多くの情報を入手することができるようになった。しかしその一方で、様々な物事に対する感覚が鈍くなってきていると感じる。そこで、百人一首に選出された作家たちがどのように風景を読み、自身の心情を重ねたのかを分析し、現代を生きる我々と共有することでセンシティブな感覚を知り、失われつつある人々の豊かな感覚を取り戻し、既存の環境に対する感覚の享受範囲を広げるためのきっかけとなると考えた。

研究目的：豊かな景観を有することで観光産業が栄えていた日光のまちから、風景のポテンシャルを引き出す建築を点在させることで、渓谷から眺める四季折々の美しい風景を取り込みながら場を作り込み、人々が風景を巡ることができるような拠点と新たな街のネットワークが形成されることを目的とする。

研究成果：対象敷地は栃木県日光市藤原周辺。鬼怒川に沿って、既存環境を生かした８つの建築「鬼怒川八景」を計画する。川上から川下に向かって順に、site1からsite8を選定し、鬼怒川が8つのフォリーを結ぶような形で、日光の新たな風景を体感できるような計画とする。「春、夏、秋、冬、旅、離別、恋、雑」のうち例として「旅」を以下に示す。



苦労した点や感想など：目に見えない心情（五感で体得すること）を形態として可視化するという試みに苦労した。多くの情報が飛び交う現代を生きる我々が、豊かな感受性をもち続け、生きやすい世の中を構築していきたい。